

米国 市場予想を上回るも小売売上高のモメンタムは弱いまま (08年1月小売売上高)

発表日：2008年2月13日(水)

～1-3月期の実質個人消費は前期比年率+0.7%に減速へ～

第一生命経済研究所 経済調査部
桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

- 1月の小売・飲食サービス売上高は前月比+0.3%と市場予想の同▲0.3%を上回った(11、12月合計で0.2%下方改定)。一方、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は前月比+0.3%(前月同▲0.3%)と加速し市場予想の同+0.2%を上回った(11、12月合計で0.1%下方改定)。また、全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は前月比+0.1%(前月同▲0.5%)と増加した。
- 3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+7.0%(前月+5.0%)と加速した。この数字はガソリン販売が価格上昇によって11月に大幅に増加した影響を受けている。この影響を除いた「自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高」は1月に+1.9%(同+1.1%)と小幅加速した。
- GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高(除く自動車・ガソリン・建材)は、1月に前月比+0.2%(前月同▲0.1%：11、12月合計で0.5%下方改定)と増加に転じ、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+3.1%(前月+2.2%)と加速、底堅さを維持している。ただし、1～3月期の実質個人消費は所得の伸び鈍化、住宅価格や株の下落によって前期比年率+0.7%に減速すると予想される。

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン			
07/03	+1.0	(+4.4)	+1.1	+0.7	+0.6	+0.0	▲1.0	+1.0	+2.0	+3.1
07/04	▲0.3	(+2.8)	▲0.1	▲1.3	▲1.3	▲0.6	▲0.2	+0.2	▲1.7	+1.2
07/05	+1.6	(+5.1)	+1.7	+2.0	+1.2	+0.7	+1.1	+1.6	+2.7	+4.6
07/06	▲0.8	(+4.0)	▲0.2	▲2.5	▲2.9	▲1.6	▲1.0	+0.0	▲1.2	▲1.9
07/07	+0.6	(+3.7)	+0.7	+0.4	▲0.0	+1.5	+1.4	+0.7	+1.3	+0.1
07/08	+0.1	(+3.6)	▲0.8	+1.7	+3.4	▲0.7	+0.2	▲0.8	▲0.3	▲2.9
07/09	+0.8	(+5.0)	+0.6	+0.8	+1.5	▲0.3	+0.7	+0.9	▲0.3	+3.0
07/10	+0.0	(+4.8)	+0.2	▲0.6	▲0.5	▲0.6	+0.4	+0.3	▲0.9	+2.4
07/11	+0.8	(+5.6)	+1.5	▲0.7	▲1.8	▲0.5	+2.2	+1.8	+1.0	+7.3
07/12	▲0.4	(+3.7)	▲0.3	▲1.6	▲1.1	▲0.9	▲3.2	▲0.1	▲2.3	▲0.0
08/01	+0.3	(+3.9)	+0.3	▲0.2	+0.6	▲0.5	▲1.0	+0.7	+1.4	+2.0

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

自動車を除く小売売上高は前月比+0.3%と持ち直し

1月の小売・飲食サービス売上高は前月比+0.3%(前月同▲0.4%)と増加に転じ、市場予想の同▲0.3%を上回った(11、12月合計で0.2%下方改定)。

項目別にみると、耐久財では家具・家電の減少幅が縮小し、自動車が拡大に転じたため、耐久財全体のマイナス幅は縮小した。非耐久財では、飲食店が減少に転じたものの、ガソリン販売、衣料品販売、その他の売上が増加に転じ、スポーツ用品・書籍、建設資材の減少ペースが鈍化、食料品店、通信販売、薬局の増加ペースが加速したことで、非

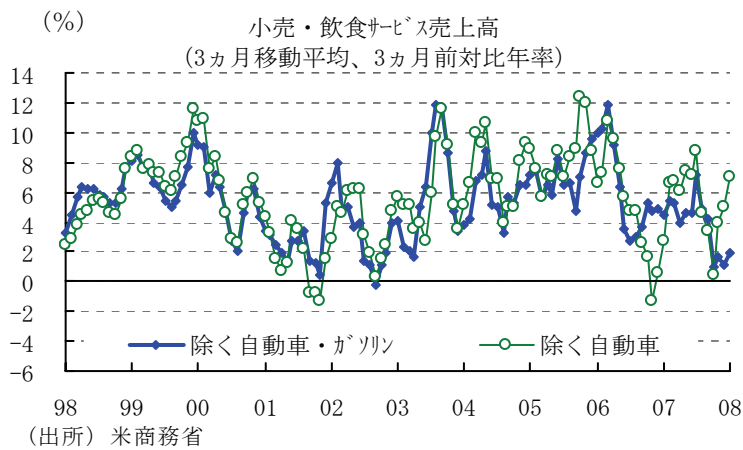
耐久財全体は増加した。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は自動車、ガソリンの増加などにより前月比+0.4%（前月同▲0.3%）と市場予想の同+0.2%を上回った（11、12月合計で0.1%下方改定）。全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は衣料品販売、自動車販売の増加によって前月比+0.1%（前月同▲0.5%）とプラスとなった。

以上のように、1月の小売売上高（除くガソリン）は、金融市場の混乱、エネルギー価格の高止まり・食品価格の上昇などの押し下げ要因が残存するもと、ギフトカードの使用に下支えられ小幅増加に転じた。

小売売上高のモメンタムは弱い

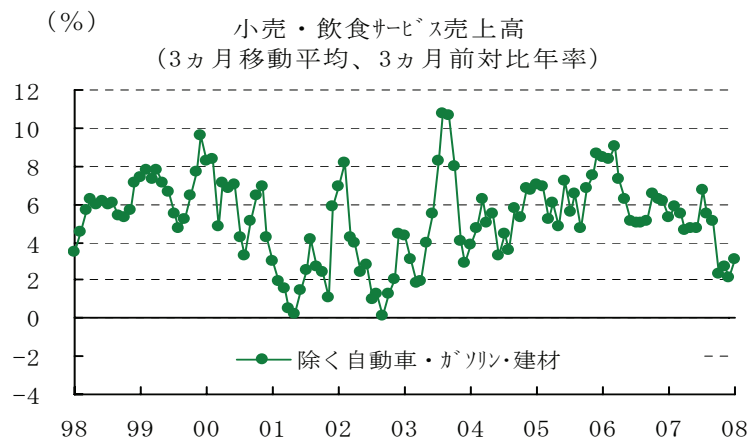
月次での変動を均すため3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で消費のモメンタムをみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+7.0%（前月+5.0%）と加速した。この数字はガソリン価格変動の影響を受けているため、自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高でみると、1月に+1.9%（同+1.1%）と加速したものの、金融市場の混乱、住宅価格の下落、エネルギー価格の高止まり、食品価格の上昇等を背景としたマインドの悪化によって小売売上高のモメンタムは弱いままである。



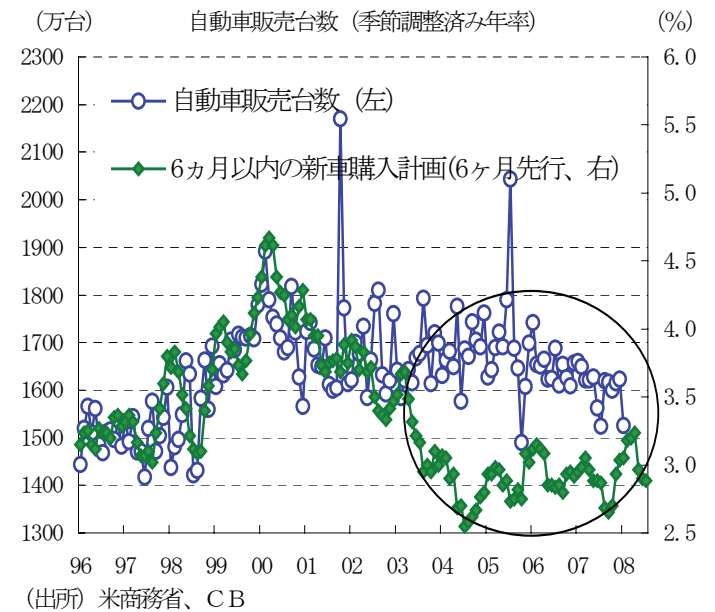
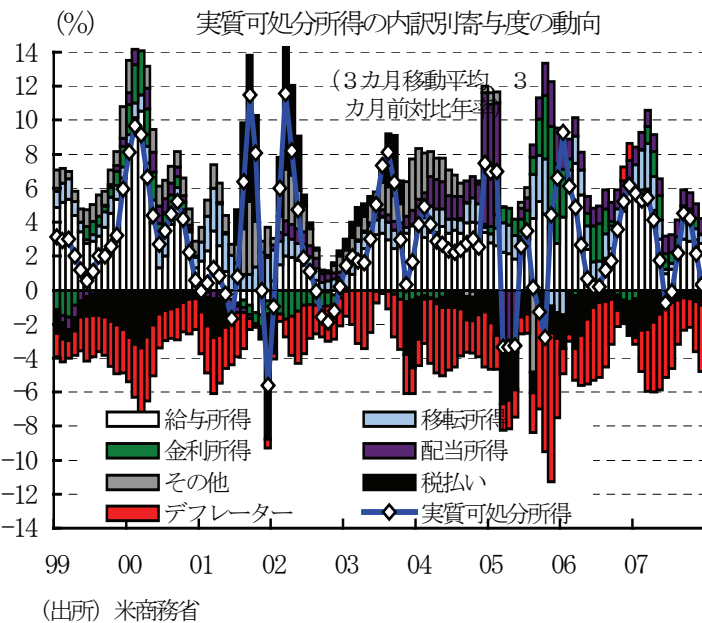
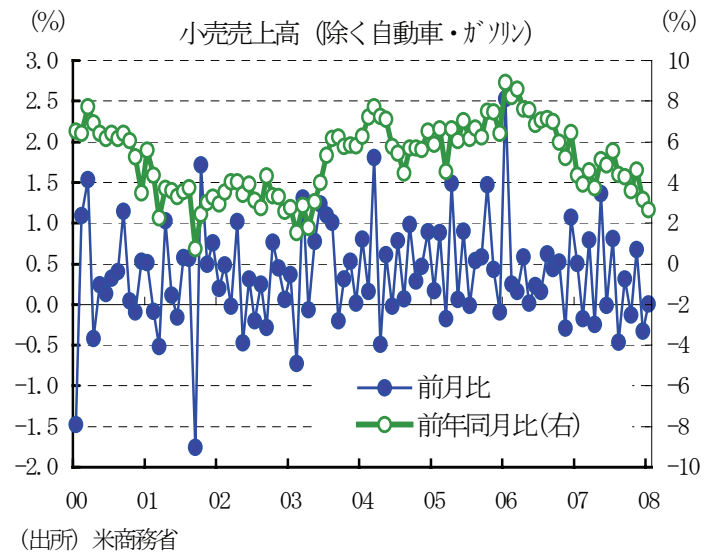
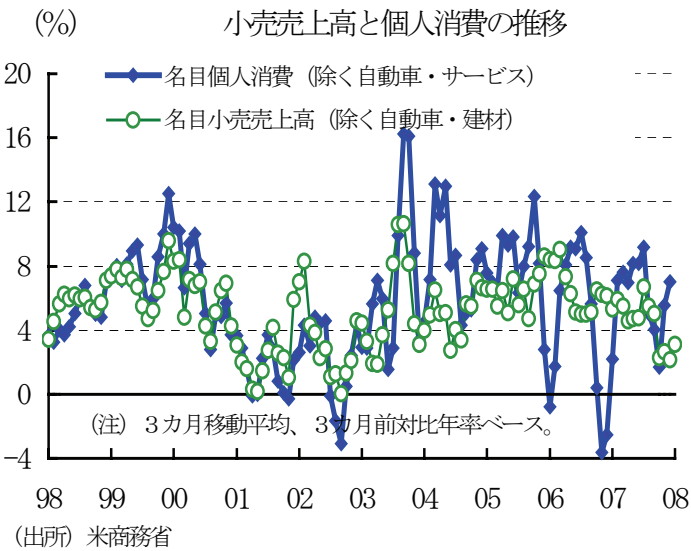
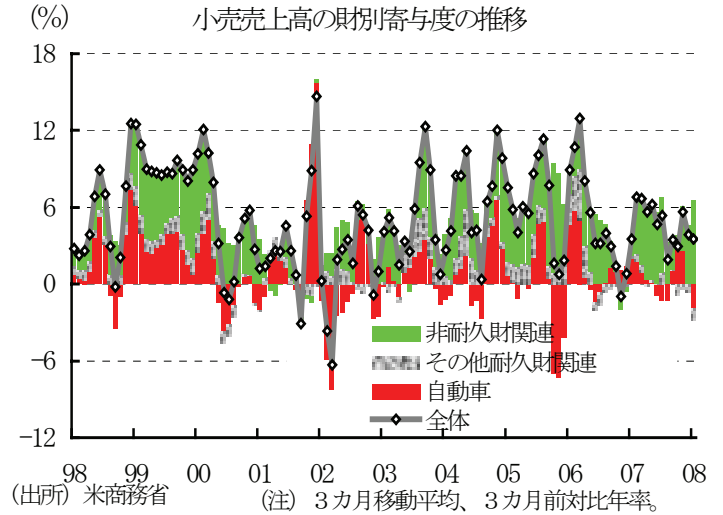
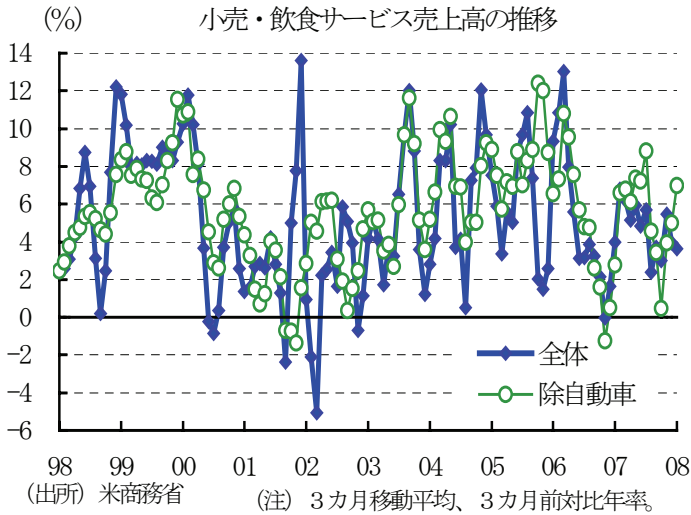
小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+3.1%（前月+2.2%）と加速

GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、1月に前月比+0.2%（前月同▲0.1%：11、12月合計で0.5%下方改定）と増加に転じ、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+3.1%（前月+2.2%）と加速、底堅さを維持している。ただし、1～3月期の実質個人消費は所得の伸び鈍化、住宅価格や株の下落によって前期比年率+0.7%に減速すると予想される。

なお、11、12月の下方改定により10～12月期の実質個人消費は前期比年率+1.7%と速報の同+2.0%から下方修正が予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。